

POPOLA ぽぽらだより

モヤモヤを、ワクワクに。

「ぽぽらだより」は、春日部市市民活動センター（ぽぽら春日部）が発行するまちづくりや市民活動を広めるためのフリーペーパー（広報誌）です。ぽぽら春日部は、まちの課題に取り組み、市民の暮らしに新たな価値を生む公益的な活動を応援する施設です。地域のための活動をしている人、何かを始めたい人がつながっていく場所でもあります。皆様のご利用をお待ちしています。

発行元 春日部市市民活動センター
（指定管理者：㈱コンベンションリンクージ）
年4回発行

2026 春号
vol.58

4/26
日曜日

春日部藤まつりに市民団体が大集合 !!

特集

まちづくりシンポジウム

「自治会×市民活動の可能性」 レポート

表紙：ふじ通り藤棚（撮影協力：粕壁写真クラブ）



ほうこく

シンポジウム	自治会	協働
デジタル活用	市民活動	交流

2月14日（土）に、ぼぼら春日部でまちづくりシンポジウムが開催されました。当日は自治会関係者や活動団体、一般参加者が50名ほど集まり、地域での連携可能性について活発な意見交流が行われました。

ぼぼら春日部で「まちづくりシンポジウム」を開催

『自治会×市民活動の可能性』について白熱の対話



これからの地域を形づくる3つの「縁」

小川 孔美 氏／埼玉県立大学 社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻 准教授

地域を支える仕組みは、今まさに静かに変わりつつあると感じています。本日は「地域のつながりをどう守る？どう広げる？」というテーマで、私なりの考えをお話させていただきます。

まず、私は地域の土台である自治会に大きな価値を見出しています。自治会は、顔の見える関係や、困ったときに自然と声を掛け合える関係を、長い時間をかけて丁寧に築いてこられました。これは簡単に真似できるものではなく、地域にとって欠かせない基盤です。

一方で、近年重要性が高まっているのが市民活動団体です。「自治会があるのに、なぜ市民活動が必要なのか」と問われることがあります。私は両者を競合関係ではなく、「お互いの不足を補い合う仲間」だと捉えています。自治会が地域全体を支える“土台”であるならば、市民活動は課題に応じて柔軟に動く“動力”です。この2つが組み合わせることで、地域はよりしなやかに機能していくのではないのでしょうか。実際、自治会に求められる役割も変化しています。従来の祭りや清掃活動に加え、防災や防犯、地域福祉、孤独死の防止、空き家対策といった、より生活に密着した課題への対応が期待されています。

しかしその一方で、担い手不足や高齢化、加入率の低下といった課題もあります。これらは決して個々の努力の問題ではなく、社会構造の変化によるものです。だからこそ、自治会だけで抱え込むのではなく、外部と協働していく視点が重要だと考えています。

ここで、私は「市民」という言葉を広く捉えたいと思っています。市民とは、地域に住んでいる人だけでなく、通勤・通学している人や、その地域で活動するすべての人を含む存在です。そして市民活動とは、「誰かのために、自ら課題を見つけて動くこと」です。そう考えると、自治会の防災や見守りの活動もまた、1つの市民活動です。両者は本来、切り離されるものではありません。

ただし、思いが同じでも協働がうまくいかない場面もあります。自治会が新しい動きを受け入れられず担い手の芽を摘んでしまうこと、市民活動団体が自らのやり方にこだわり連携の機会を拒んでしまうこと、あるいは地域の居場所が内向きになり新しい人を受け入れなくなること。こうした“閉じた視点”が、せっかくの可能性を狭めてしまうのです。私は、互いの違いを認め、「開く」姿勢を持つことが何より大切だと感じています。

その1つのヒントとして、デジタルの活用があります。例えば、スマートフォンの相談会をきっかけに生まれた交流の場では、単に操作を教えるだけでなく、人と人との関係が育まれていきました。さらに、オンライン上のやり取りを通じて、会えない時間もつながり続けることができます。私はこれを“デジタルの縁側”と呼んでいます。デジタルは難しいものではなく、人が人に向き合う余白を生み出すための道具なのです。

最後に、私が大切にしている「3つの縁（えん）」という考え方をお伝えします。自治会という暮らしの基盤である「地縁」。市民活動などの「志縁」。そして、それらを軽やかにつなぐ「デジタルの縁側」。この3つの縁が重なり合うことで、新しい地域の姿が見えてきます。地域づくりは、どこか1つの主体だけで完結するものではありません。それぞれの強みを持ち寄り、対等に響き合わせることで、その先にこそ、誰もが自分らしく安心して暮らせる、これからのコミュニティのあり方があるのだと信じています。本日のお話が、皆さまの次の一歩につながれば幸いです。ありがとうございました。



再び地域の絆を
中田 猛 氏／金崎区長

連携で地域を活性化

石崎 純一 氏／金崎区環境整備会

私たちの区では、自治会を基盤に「金崎区環境整備会（以下、整備会）」と連携し、美化活動や防災訓練、そして地域交流の場づくりを進めています。中でも象徴的なのが「コスモス祭り」です。高齢化やコロナ禍で途絶えてしまった地域の絆を取り戻したいという思いから開催を決意。この取り組みを支えているのが、多面的機能支払交付金（農水省）の活用です。市職員の方のサポートもあり、予算面はもとより人員の確保もしやすくなりました。整備会にも後押ししてもらい、本当に助かっています。（中田氏／写真左）

整備会では水路や農道の維持管理に加え、ドローンを活用した災害対応など、新たな挑戦も進んでいます。こうした積み重ねが、人と人とのつながりを再び育てています。自治会単独では難しい活動も、制度や行政、市民団体と連携することで地域活性化につながっていく素晴らしい取り組みになったのではないかと思います。（石崎氏／写真右）



双方をつなぐ人の流れ
森本 剛志 氏

／認定・埼玉県指定 NPO 法人
メイあさかセンター

コロナ禍を契機に始めたスマホサロンには、現在では年間600人以上が参加。操作の反復練習だけでなく、実践的で楽しみながら学べる工夫をしています。最近では地域に出向く「出前講座」をはじめ、マンション自治会等と連携し、LINEを活用したデジタル回覧板の活用やキャッシュレス決済等の講座を開催。連携による自治会側の利点は、自治会館等の身近な生活拠点に専門講師（NPO）が介在することで役員の方々の負担を軽減できること。NPO側の利点は、活動の幅が広がるとともに地域の信頼獲得につながることが挙げられます。何より、双方の活動の場を行き来する「人の流れ」が生まれたことが大きな収穫と感じています。NPOのサロンで学び、自治会の活動で実践（練習）する。この両輪が回ることで、シニアが地域でスマホを「使い続ける」仕組みをつくることができ、それぞれが、デジタル時代のひとつの協働のかたちなのではないでしょうか。



シンポジウム後半では、共催パートナーの彩の国市民活動サポートセンター（たまサポ）で市民活動コーディネーターを務める藤井美登利氏が登壇し、ワークショップのファシリテーターを務めました。藤井氏は「自治会も市民活動も現場の課題は共通している」という認識が、今回の企画の出発点にあったと言及。川越で実践しているNPO活動や県内のネットワークづくりに携わってきた経験から、自治会と市民活動をつなぐ県内の実践的な事例を紹介し、自治会館を利用して子ども食堂を立ち上げた事例や外国人支援などの事例から地域での実現可能性が具体的に示されました。

最後は参加者同士の対話の場へと移り、それぞれの課題や挑戦を共有。つながりを“考える”だけでなく、“生み出す”時間となりました。

ぼぼら春日部の新しい所長をご紹介します

おしらせ



春日部市市民活動センター 所長
深沢 美早季

はじめまして。この度、春日部市市民活動センターの所長として着任いたしました深沢美早季です。

私はこれまで市外の公共施設で地域の文化振興に携わり、芸術文化を通して世代間や地域差を越えた人と人のつながりを強化することに努めてきました。そしてこれからは「まちづくりの主役は市民」をモットーに、こころもからだも社会も豊かでよりよいまちづくりに取り組む春日部市の皆さまをサポートするため、これまでの経験や知識を微力ながら役立てて参ります。市民の皆さまが春日部市の未来を共に創って行けるよう、人と人が出会い協働できる広場（ぼぼら）をこれからも提供し続けますので、

今後とも「ぼぼら春日部」をどうぞよろしくお願いいたします。





情報発信

イベント



ほうこく

交流

防災

第45回春日部藤まつり

「ほぼら春日部」が第3会場に出展！

日 4/26（日）10:30~16:00（雨天延期4/29）

所 春日部駅西口ふじ通り 第3会場

春日部コミュニティ推進協議会が主催する「春日部藤まつり」に、今年もほぼら春日部がブースを出展。沿道に出展する他のたくさんの市民団体と一緒にお祭りを盛り上げます。



ブースでは昨年好評だった「けん玉チャレンジ」を今年も楽しんでもらう予定です。ブースで皆さんの来場をお待ちしています♪

市民団体交流会

学んで、食べる防災講座



3月7日（土）に、ほぼら春日部で市民団体交流会が開催されました。今回は登録団体同士の交流を深めるきっかけとして「防災」をテーマに。当日は、春日部市危機管理防災課の職員の皆様を講師に招き、地震等の自然災害とその備え、ハザードマップの見方、災害時における避難所運営等について理解を深めました。用意した防災食・減災食を保存水で調理する体験会も実施し、アルファ米、レトルト食品、缶詰、アレルギー対応食等を実際に試食しました。今後もほぼら春日部では登録団体同士の交流の機会を積極的につくっていきます。



お知らせ

ほぼらの共催イベント

社会のこと、春日部のことを知るのここ！

ほぼら春日部では、登録団体の皆さんと一緒に、毎月さまざまなテーマでセミナーやイベント、展示等を開催しています。

関心のあるテーマがあればぜひお問い合わせください。皆様の参加をお待ちしています。

※詳しくは右記のQRコードから



お知らせ

新規登録団体情報

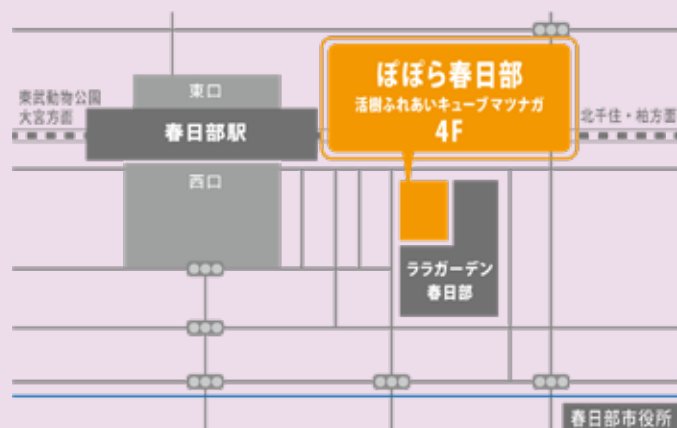
NEW

新規に登録された団体をご紹介します。センターには多くの市民活動団体が登録されています。団体同士の交流やマッチングを希望される方はいつでもセンター窓口にお問い合わせください。



活動内容は
こちらから

- しわあわせ ●春日部市ふれあい大学第42期同期会
- S.W. ドローン ●日防隊 春日部分隊①
- 障害児者のくらしを守る市民の会（順不同）



※東武スカイツリーライン/アーバンパークライン「春日部駅」下車。西口徒歩5分。
※駐車場（有料）は数に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

イベント・セミナーのお申し込み・お問い合わせはこちらから

☎ 048-731-3550

✉ popola@kasukabehall.jp

春日部市市民活動センター（ほぼら春日部）

年中無休（年末年始を除く） 9:00～21:30

〒344-8578 埼玉県春日部市南 1-1-7 活樹ふれあいキューブ マツナガ 4階

HP



※当施設の会議室を利用するには、「団体登録」が必要となります。詳しくはHPをご覧ください。ただか、上記窓口にお問い合わせください。

※交流・ミーティングスペース、キッズスペースなどは、団体登録なしにどなたでも自由にご利用いただけます。